

クルーズ観光のリピート乗船意向に関する調査研究

金沢大学 学生会員 ○大西 遼
金沢大学 正会員 藤生 慎
金沢大学 フェロー 高山 純一

1. 研究の背景・目的

近年、日本国内でのクルーズ船寄港回数が増加している(図-1)。クルーズ船を受け入れる環境を整えるべく、岸壁の強化や拡大等、国を挙げてのクルーズ船受け入れ態勢の強化といった動き¹⁾も見られ、今後は国内におけるクルーズ観光の普及が期待される。クルーズ観光は現在堅調に寄港回数を伸ばしており、今後もその動向を注視する必要がある。現在クルーズ観光を利用している層がクルーズ旅行をリピートする意思があるのか、クルーズ旅行が普及すると感じているのかどうかを明らかにした事例はない。本研究では、クルーズ客にアンケートを行い、これらの現状把握ならびにリピートする意思の度合い(=リピート意向得点)の予測モデルを構築する。

2. 調査概要

本研究では、金沢港発着クルーズであるコスタ・ネオロマンチカの日本人乗客を対象としてアンケー

が伸びており、2016年度より発着型クルーズが開始するなど、今後日本海側のクルーズ拠点港としての期待度が高い。2017年8月~10月間で7回の調査を行い、得られたデータ数は320である。

3. 分析結果

アンケート調査で「クルーズ旅行をもう一度したいと思うか」、「クルーズ旅行は今後、日本で人気になると思うか」、その思いの強さをそれぞれ10段階で尋ねた結果の度数分布を図-2、図-3に示す。なお、これら2変数の相関係数は0.627であり、十分に高

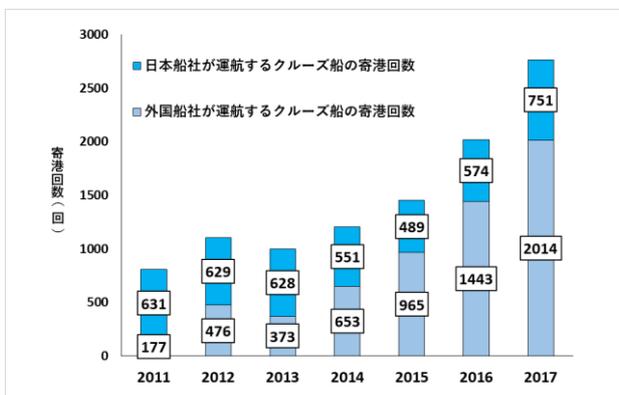


図-1 我が国のクルーズ船寄港回数の変遷²⁾

ト調査を行った。金沢港はクルーズ船の寄港回数

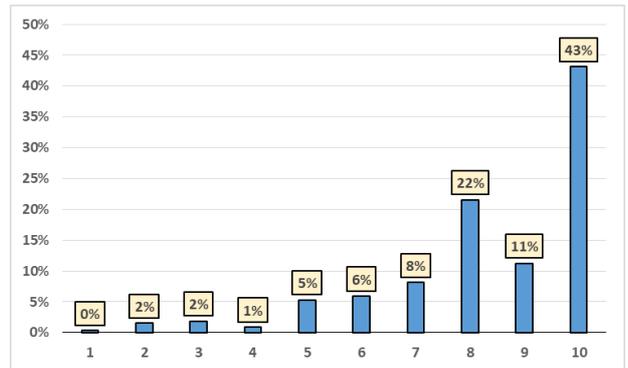


図-2 またクルーズ旅行をしたいと思うか

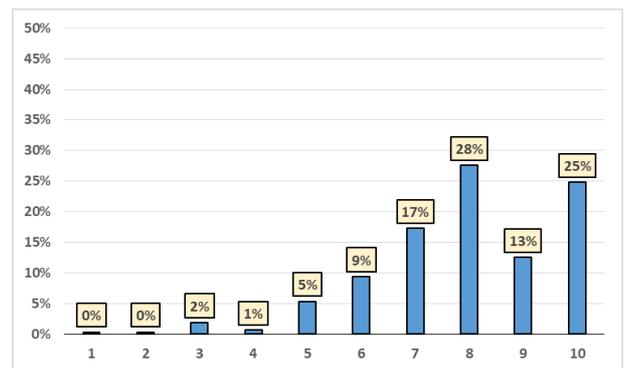


図-3 今後クルーズ旅行が人気になると思うか

キーワード クルーズ観光, 金沢港, 発着型クルーズ, リピート乗船意向

連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町金沢大学理工研究域環境デザイン学系自然科学2号館7階2C712

参考文献

- 1) 朝日新聞デジタル「クルーズ船誘致へ 経済対策 狙うは爆買い、政府の皮算用」2016年8月4日 石田耕一郎
- 2) 国土交通省ホームページ: <http://www.mlit.go.jp/common/001116073.pdf>

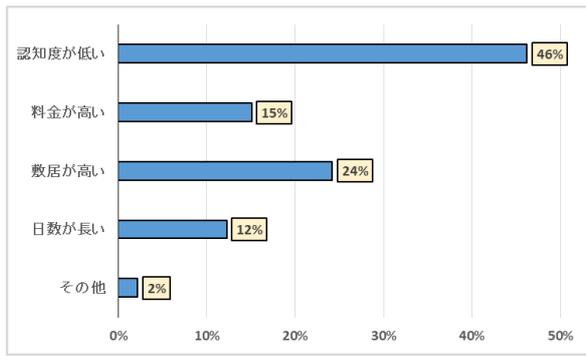


図-4 日本でのクルーズ旅行普及の課題と感ずる項目

表-1 重回帰分析の変数の推定結果

変数	偏回帰係数	P 値	** : P<0.05, ** : P<0.01		
数量データ	年齢	-0.460	0.000	**	
ダミー変数	クルーズ旅行経験	初めて	-1.017	0.040	*
		2~5回	-0.574	0.265	
		6~9回	-0.478	0.515	
		10回以上	-	-	-
		とても安い	1.774	0.002	**
	クルーズの価格	安い	1.468	0.010	*
		ちょうどよい	1.236	0.028	*
		高い	-	-	-
	クルーズの日数	とても短い	1.763	0.394	
		短い	2.736	0.127	
		ちょうどよい	1.658	0.338	
		長い	-0.572	0.757	
		とても長い	-	-	-
	クルーズのコース	とても不満	-1.071318	0.430	
		不満	-1.902112	0.001	**
		普通	-1.921015	0.000	**
		満足	-1.151319	0.008	**
	とても満足	-	-	-	-
定数項		7.4381429	0.000	**	
重相関係数 R		0.5545155			
決定係数 R2乗		0.3074875			

い相関性があると言える。分析の結果、またクルーズ旅行をしたいと強く感じている(思いの強さが8~10)回答者割合が高いものの、今後クルーズ旅行が人気になると思うかという設問に対しては、回答者割合が若干低いという現状であることが分かる。また、クルーズ客の「またクルーズ旅行をしたいと思うか」の思いの強さに起因する項目の抽出を行うために、重回帰分析を用いて、感度分析を行った。説明変数として以下の変数を採用した。(数量データとして「年齢」、ダミー変数として「クルーズ旅行経験」、「世帯年収」、「世帯の貯金額」、「クルーズの料金」、「クルーズの日数」、「クルーズのコース」) 目的変数はリピート意向得点である。なお、「世帯年収」、「貯金額」の変数項目および表において「- (ハイフン)」で表示されている項目は有意性が見られず、重回帰分析の推定にあたって変数から除外した項目である。

変数の推定結果および分析結果の詳細を表-1 に、感度分析の結果を図-5、図-6 に示す。分析の結果、有意な変数として「クルーズの価格」、「クルーズのコース」が推定されるが、感度分析ではリピート意向得点の変動が比較的小さいことが明らかとなった。

また、クルーズ旅行普及の課題として考えられるものの集計結果を図-4 に示す。分析の結果、クルーズ旅行普及の課題として「料金の高さ」や「日数の長さ」よりも、「認知度が低い」、「敷居が高い」という項目の重みが多いことが分かる。先述の重回帰分析では「クルーズの価格(料金)」がリピート意向に影響することが示唆されたが、この結果を踏まえると、「クルーズ観光は敷居が高く庶民が手を出せるものではない」といった既成の固定観念が乗客にはあり、クルーズ観光の普及にあたって障害となっていることが示唆される。

4. まとめと今後の課題

重回帰分析による変数推定の結果、クルーズ旅行のリピート意思に影響を及ぼすと考えられる項目として「クルーズの料金」が推定された。一方で、日本でのクルーズ旅行普及の課題と感ずる項目としては「クルーズの料金の高さ」よりも、「認知度が低い」、「敷居が高い」という項目の回答割合が高いことから、クルーズ旅行普及の課題として最も重要なのは「認知度の低さ」、「敷居の高さ」という悪いイメージを払拭する必要性が最も有効であることが示唆される。今後は、クルーズ旅行経験が豊富で実際にリピートした回答者と、初めてクルーズ旅行を経験した回答者をそれぞれ抽出し、両者の間にある規定要因を明らかにする。

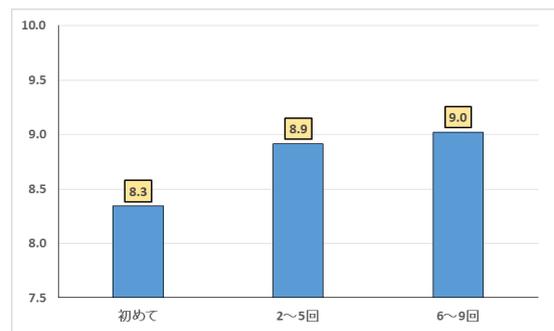


図-5 重回帰分析による感度分析結果(クルーズ旅行経験)

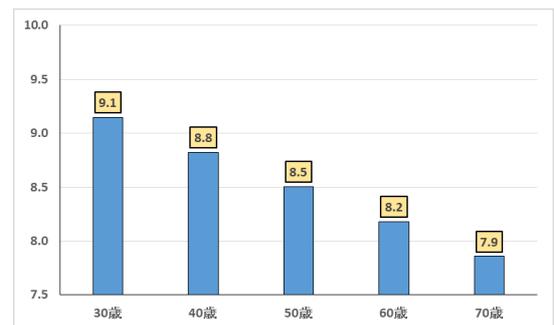


図-6 重回帰分析による感度分析結果(年齢)